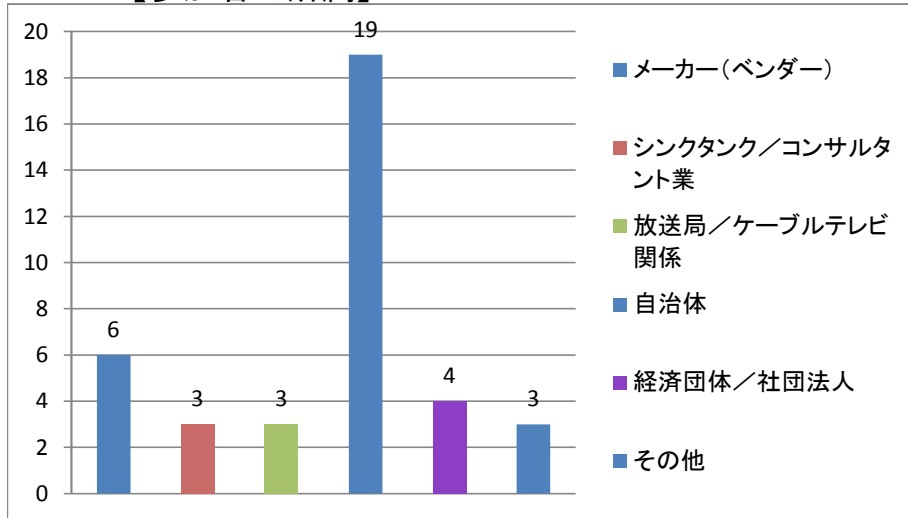


地域オープンテータ推進会議（広島市）

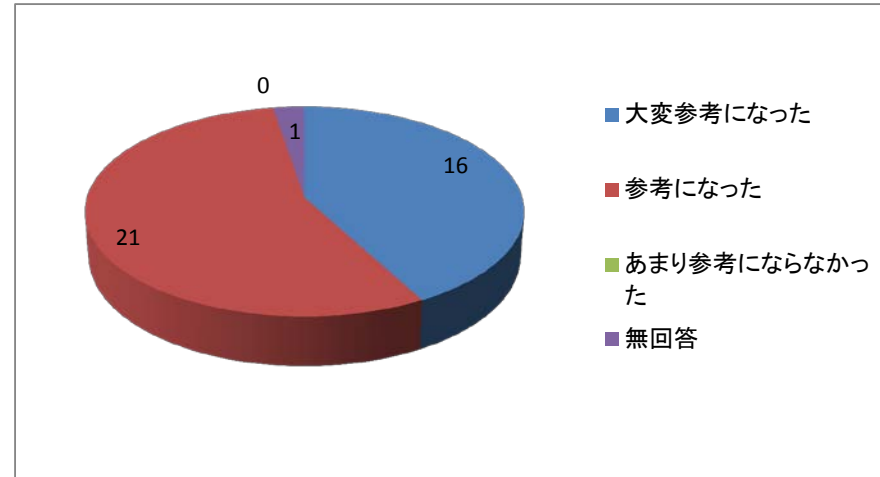
～来場者アンケート取りまとめ～

開催日時	平成28年7月29日（金）
来場者数	65名
アンケート回答数	38件（回収率58.5%）

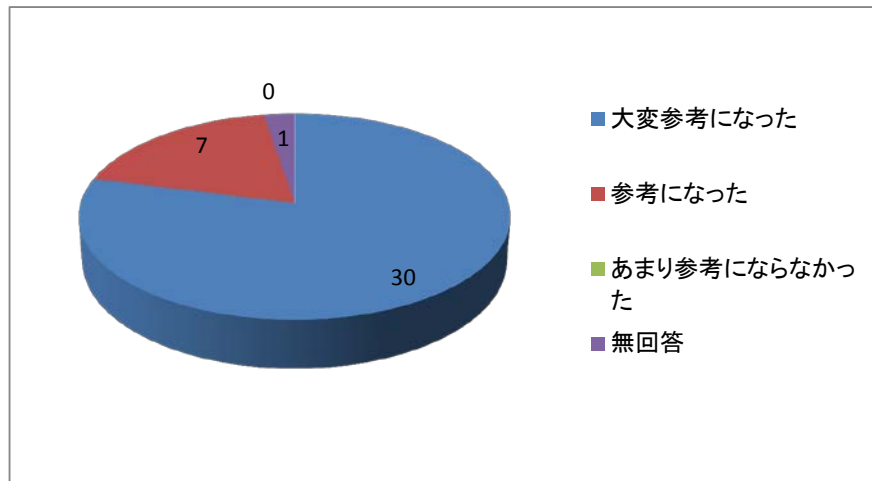
【参加者の所属】



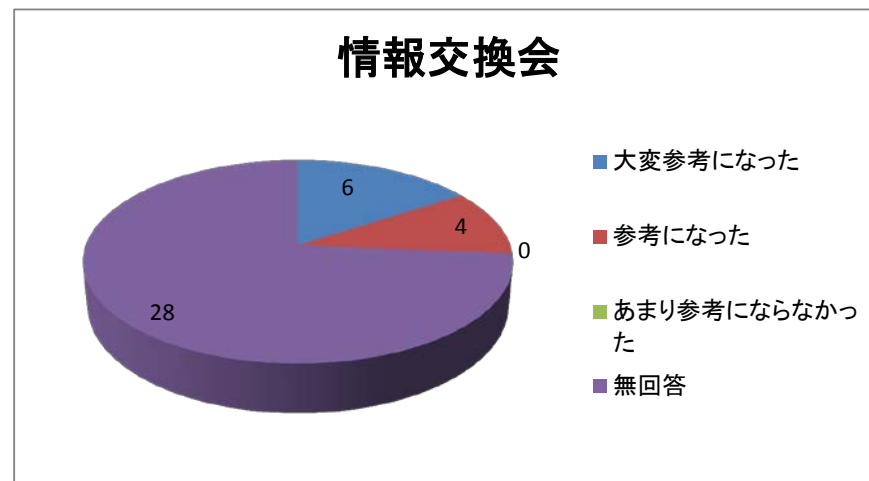
【講演1】内閣官房 IT総合戦略室
加瀬 友也 氏



【講演2】国際大学グローバル・コミュニケーションセンター
庄司 昌彦 氏



【情報交流会】



いただいた主なご意見(自由記述)

○講演1

(意見・感想)

- ・カタログサイト、ダッシュボードについて初めて聞いた。参考にしてみたい。
- ・これからの動きが良くわかった。
- ・政府の大まかな方針が分かった。
- ・国が考えているオープンデータの進め方や展開方法が分かり参考になった。
- ・環境を整えてきて、これからは活用の段階に入っていることが良く理解できた。
- ・実施している事業の方向性の確認がとれた。
- ・話が分かりやすくてよかったが、図表が多かったので資料がほしかった。
- ・自分でいろいろ調べてみようという情報がたくさんあり、有意義な話を聞くことができました。
- ・概要が理解出来た。
- ・政府の取組については、調べていなかったため、とても参考になった。
- ・パッケージも扱っているとのこと、今後の活用を検討してみます。

(資料について)

- ・パワーポイントの文字を大きくするとより分かりやすいのではないかと考えます。
- ・講演資料はいただけないか。(PDFでもデータでもよい。)ぜひいただきたい。
- ・資料1ページあたりの情報量が多すぎて、見えない部分がある。
- ・資料を持ち帰りたかった。
- ・レジュメを配布していただきたかった。

○講演2

(意見・感想)

- ・後半セクションのデータ提出サイトの話が有益であった。
- ・75分があつという間でした。
- ・論点が明確になった。他の職員にも聴かせたい。
- ・データ提供者の立場からの考えは、今まで悩んでいた事について、一つの解決策が見えた気がしました。大変ありがたかったです。
- ・オープンデータとして利用されるのが前提という発想が大切。
- ・オープンデータの意義や事例について分かり易く説明されていた。
- ・全体の枠組みをザックリと理解することができた。
- ・社会インフラとしての都市データの濃度を上げる発想到に気づかされることがありました。
- ・オープンデータのメリットが理解出来た。
- ・具体的な事例を交えてご説明いただき、分かりやすかった。
- ・具体的なヒントが多かった。
- ・「7 データ提供者・・・」は細かい内容で良かった。
- ・オープンデータの利活用に関して、いろんな側面から知ることができた。
- ・具体的な取り組みが分かった。
- ・シェアリングとコラボレーションの違いを取り組みのベースとして考えていきたいと思いました。
- ・実際のビジネス利用(お金のまわる仕組み)をより聞きたくなった。
- ・複数のデータを活用する事が重要だと感じました。

○情報交換会

カンファレンスの後で参加者相互に情報交換出来ることはとても有意義です。良い企画だと思います。粋な計らいですね。時間的に無理でした。

先生と直接お話出来る機会はとても良かったです。ありがとうございました。

会話が出来た良かったです。

講師の方々と実際に交流が出来て良かったです。

○今後の取り扱って欲しいテーマ、企画や意見要望等

起業し、ビジネスとして成功している方の話

情報銀行の今

テレワークの推進、ふるさとテレワークの進め方など

とても勉強になりました。ありがとうございました。

初めてオープンデータについてのお話を伺い、より興味を持つことが出来ました。頂いた情報を帰社後調べた上で社内展開を考えたいと思いました。

大変興味深い内容であり、有意義であった。

人工知能の社会サービス実装

各質問に対する回答(自由記述)

問3 自治体様への質問 データ公開に関する課題・要望

(課題 組織)

- ・横断的な協力に対する理解。
- ・人的リソースの問題
- ・人員、知識向上、部署の横の連携強化など。
- ・機械判別可能な形式で、データを作成するための職員の負担軽減が課題です。
- ・庁内の理解促進
- ・誰を対象として公開するかによって、必要とする情報の室やベクトルが異なるため、個別に検討が必要。
- ・小規模自治体の場合、やはりこれに日々中心となって取り組む人員の確保が一番の課題です。□
- ・内部での横断的な理解を得ることが課題
- ・主張及びデータ保有部署に必要な性を認識してもらうこと、利用してもらうことが課題である。
- ・職員の理解を得るための説明が課題。
- ・データ保有課の理解が得られない。

(課題 運用)

- ・データの管理が不十分なものもある。
- ・公開を想定してデータ作りができていない。
- ・公開した場合の想定されるトラブル、責任の所在が懸念材料。
- ・情報公開請求をビジネス利用されること(一部のユーザのみ利益を受ける)への抵抗感。
- ・オープンデータとして公開する範囲と、公開したデータの有益性の判定。
- ・カタログサイトの構築・運用の予算確保
- ・地域の収益に変換すること。

(課題 その他)

- ・出しているデータが必要とされてるかどうかよく分からない。
- ・必要とされているデータがどのようなものかわからない。
- ・はじめの一步を踏みだすきっかけが必要。

(要望)

- ・総務省が強力に推進していただければ、庁内調整の手間が省けます。
- ・企業がどのようなデータを求めているのかが知りたい。
- ・全国共通で利用できるデータ流通基盤(自治体、企業など誰でも活用できるもの)

問4-1 企業・団体様へのご質問 オープンデータ利活用に向けた課題・要望

(課題)

- ・自治体の積極的なデータ公開、各課への公開推進体制整備。
- ・ものづくり企業で働く者の感覚からすると、何に使われるか分からないデータをどんどん作り、さらにメンテナンスに労力を費やす感覚は理解できない。
ニーズベースで考える or どこかで費用対効果を算定する必要があるのでは無いか。
- ・オープンデータを処理するIT担当者のスキルアップ
- ・データを処理する人材不足
- ・公開依頼及び個人情報保護法等専門観点での審査、公開可否の判定窓口(自治体での個別判断は難しいと思います。)
- ・トップに意義を理解してもらう。
- ・最初のデータ登録後、データを常に最新のもので維持していくための施策。
- ・いかに地域の人や現場の方々と持続可能な取組とするか。
- ・データを持っている方に、理解してもらい、オープンしてもらうことの難しさを感じた。
- ・オープンデータを扱う自治体を増やす必要がある。

(要望)

- ・ビジネス化出来た事例など、具体的な提示があるとよいと考えます。
- ・実証実験の支援、補助
- ・オープンデータの活用についての実践セミナー等の場やトレーニングの場
- ・ビジネス活用出来る事例が多いと良いです。

問4-2 企業・団体様へのご質問 どのようなデータを希望するか

(具体例)

- ・設備の維持管理、点検データ。施設の利用状況、リアルタイム性の高いデータ。
- ・地域のイベント情報
- ・幹線道路、国道、県道別の車両等の利用頻度(量)
- ・空き家情報、空きビル情報
- ・自転車事故の危険が高いエリアマップ

(その他)

- ・活用事例
- ・「Hiroshima」というキーワードで全世界のニュースをデイリー集約したサイト
- ・自治体以外のデータも公開可能かと思えます。(国立の研究機関、法人)
- ・どのようなデータがあるのか分からないので、どんなデータを持っているのかのデータが欲しいです。
- ・地図にマッピング出来るデータはどんなデータでも活用出来ると考えております。